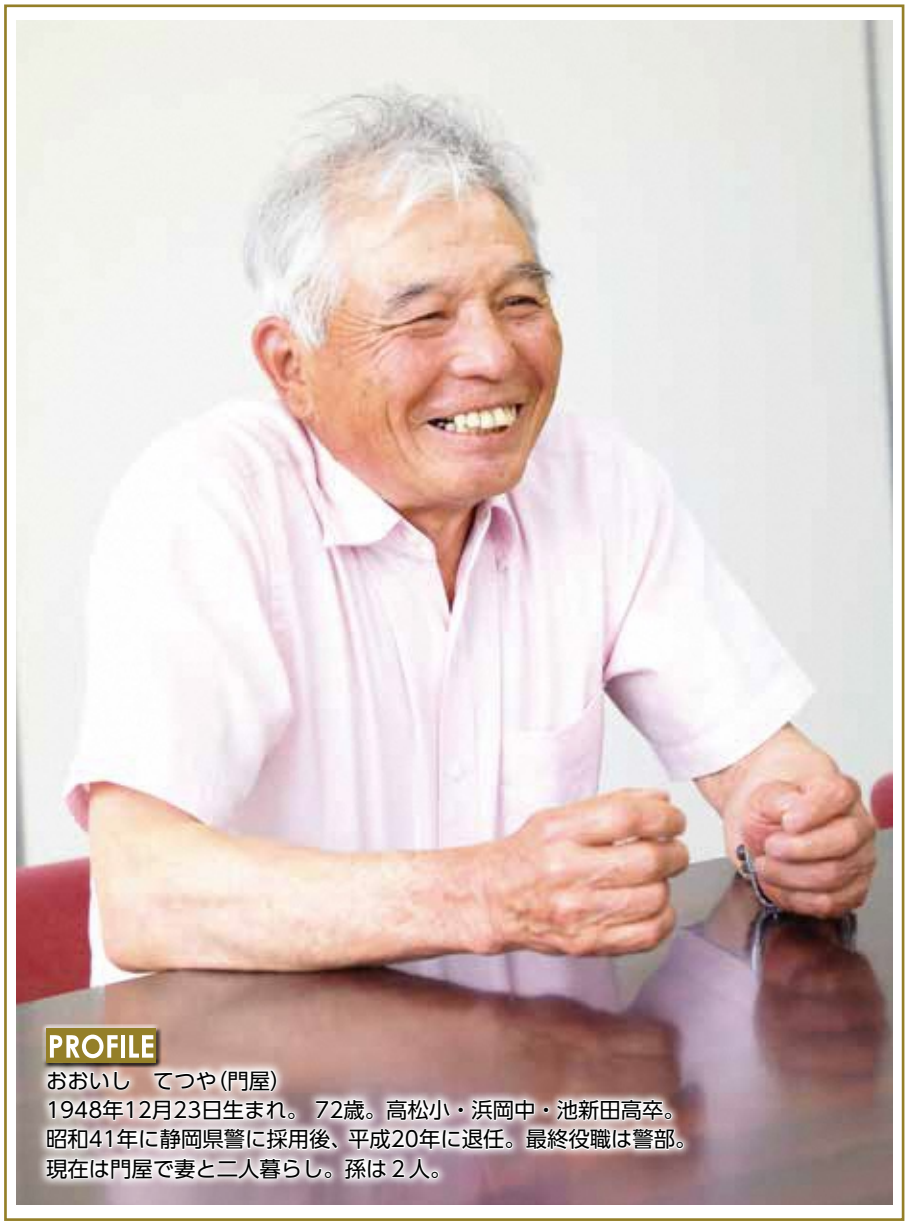
おまえざきの人　きらり輝く人

警察功労で瑞宝双光章を受章

大石 哲也 さん



PROFILE
おおいし　てつや（門屋）
1948年12月23日生まれ。72歳。高松小・浜岡中・池新田高卒。
昭和41年に静岡県警に採用後、平成20年に退任。最終役職は警部。
現在は門屋で妻と二人暮らし。孫は２人。

栄えある瑞宝双光章を受章

長年静岡県警に勤めていた大石哲也さんが4月29日、瑞宝双光章を受章した。

同章は、警察官や消防吏員、自衛官といった著しく危険性の高い業務に精励し、社会に貢献した人へ国から贈られるものだ。

大石さんは「これまでの活動が評価されたことをうれしく思います。42年間の警察人生を振り返ると、よくここまでやり遂げられたなと感じています。ずっと支えてくれた妻には感謝が尽きません」とその思いを語った。

心のつながりが大切

大石さんが所属していたのは地域課だ。市民の安全を守るため、長きにわたって幅広い活動をしてきた。

「警察官の仕事は、多岐にわたります。危険な事件を引き受けることもあります。この多様な業務を安全・円滑に遂行するためには、同僚の勤務員と心をつなげることが重要でした。そのために努めたことは、上司と部下の関係であっても互いに言いたいことを言い合える環境作りです。磐田署で交番長を務めていたとき、私には12人の部下がいました。面白いことに12人いれば、12通りの個性があるんです。そのため、一人一人の個性を尊重しながら話を聞くことに力を入れましたよ。これが功を奏し、12人の勤務員と連携して治安維持に努めることができました」と当時を振り返る。

現在、第一線で任務に励む後輩に「いまは、新型コロナウイルス感染症の影響で大変な思いをしていることと思います。これまで以上に地域の人たちと協力し、治安の維持に全力を注いでほしい。警察官の仕事は大変な時もありますが、負けずに頑張ってください」とエールを送る。

引退した今、やりたいこと

「今は、田植え作業で忙しくしています。それが終わったら趣味のキス釣りをやりたいですね。でも、田植えが終わったら、次はトウモロコシの種まきが始まるんですよ。趣味に時間を使えないのは、現役のときから変わっていませんね」と笑顔をみせた。